

## 事例 5 長野県北御牧村

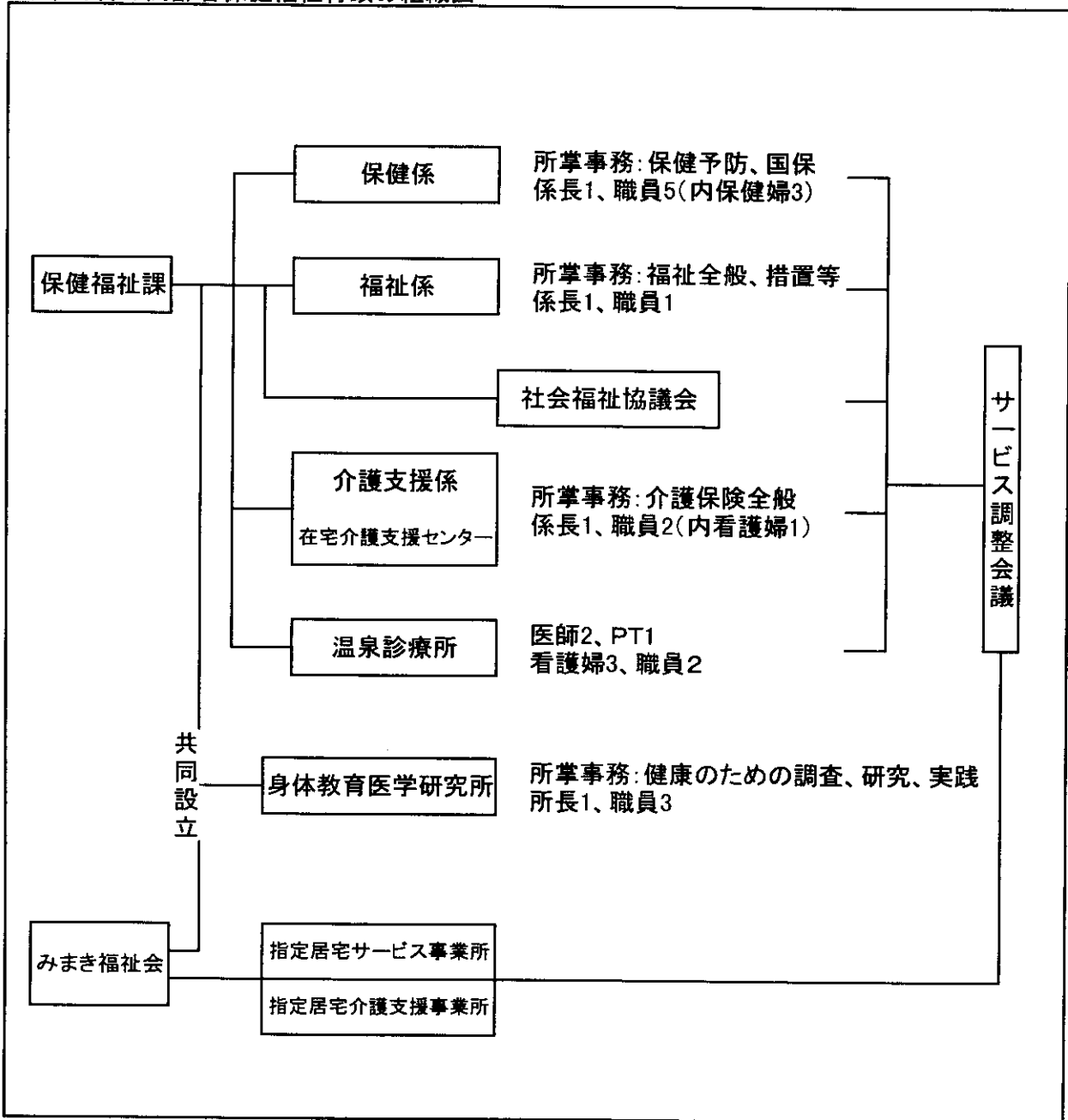
人 口	5,661 人
高齢者数	1,434 人
高齢化率	25.33%
担当部署	保健福祉課福祉係

# 1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	北御牧村は長野県東部に位置し、総面積25.75Km <sup>2</sup> で、標高600～800mの東西ふたつの大地に囲まれた、500～550mの川沿地帯からなり、かつては農業を基幹産業として成り立ってきた農山村であるが、昭和50年代からの農業をめぐる環境の厳しさと他産業への人口流出により、農業労働者の高齢化と女性労働への依存が急速に進んだ。このような状況で長年、過重な農作業を担ってきた農山村の高齢者には膝腰に障害があり、過度な変形やそれに伴う疼痛といった症状を示す者が非常に多い。また、寝たきり高齢者の原因の順位をみると、脳卒中と転倒による骨折で要介護状態になるものが多いことが注目された。								
	人口	5661 人			高齢者数（高齢化率）			1434 人（25.3%）	
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯					
	768戸（総1741戸）			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯			その他	
				95	115			763	
要介護認定（申請）者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計
	4		5	52	25	22	33	28	169
社 会 資 源 状 況	指定居宅サービス事業所（か所数）	訪問看護 （ 1 ）	訪問介護 （ 1 ）	通所介護 （ 1 ）					
		通所リハ （ ）	短期入所系 （ 1 ）	その他 （ ）					
	指定居宅介護支援事業所（か所数）	1							
	保健センター 在宅介護支援センター（か所数）	1（ケアポートみまき） 1 ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。							
	介護予防事業の拠点となりうる場（か所数） （公的施設以外も含む）	26箇所 温水プール 1 温泉施設 2 公共施設 2 区公民館 21							
介護予防事業の担い手となりうる組織・団体（組織・団体数・人員数）	老人クラブ、16支部、1226人								

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

2、市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



### 3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(●) 関連(類似)事業があった。 →問2～問4へ ( ) 関連(類似)事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、 県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、 対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <p>事業名 国保関係事業 所管 保健福祉課保健係 事業内容 温水プールを利用した膝腰健康体操教室 対象者 村民全般 実施回数 年20回 スタッフ みまき福祉会(温水プール指導員)に委託</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>( ) 行った (●) 行っていない (具体的方法)</p>

### 3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4) 従来 of 事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心となった部局はどこか？</li> <li>・何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？</li> </ul>	<p>部局 福祉係・身体教育医学研究所</p> <p>本村に身体教育医学研究所を開所するにあたり、高齢者の運動機能に注目する目的と合致したため、膝腰健康教室の開催、その評価に重点を置くこととした。</p>
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

#### 4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？</li> <li>・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？</li> <li>・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？</li> <li>・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？</li> </ul>	<p>協議委員会の設置はしていない。関係する保健福祉課、身体教育医学研究所、社協、みまき福祉会、老人クラブで協議した。</p> <p>健康体操の内容等について、指導員と研究所で協議した。</p> <p>老人クラブ各支部に介護予防指導員を2名ずつ選任してもらい、協力してもらっている。</p> <p>研究所が中心となり膝腰健康体操教室の日程、内容等を企画し、保健婦が参加者の呼びかけを行った。</p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法)</li> <li>・事業対象者の選定方法はどうか？</li> <li>・事業に従事する人材をどのように確保するか？</li> <li>・既存の設備の利用が可能か？</li> <li>・新たな設備整備が必要か？</li> <li>・どの部局の事業予算をどのように確保するか？</li> </ul>	<p>65歳以上の高齢者を対象に、健脚度（移動能力、バランス能力）測定を毎年度実施し蓄積することにより、個々の健脚度を目で見取れる評価基準を作成した。これにより一定の基準より機能の低下が見られる高齢者に対して教室参加を促すこととした。</p> <p>各区公民館に出向き400人ほどの測定を実施しているが、関係者だけでは人手が足りないため、老人クラブ各支部より2名の介護予防指導員を養成し、健脚度測定や区公民館で行われる教室に協力をしてもらうこととした。</p> <p>膝腰健康体操教室には床運動と、水中運動がある。床運動は、高齢者が集まる機械に指導員が出張して指導する、ストレッチがおもとなるため公民館で十分である。しかし、水中運動は既存の温水プール（みまき福祉会所有）で実施しているため、教室のときは水を抜いており、身長が低い高齢者用に水深の調整が大変な状況となっている。このためプールの一部底上げが必要であると福祉会の了解も得られたが、多大な資金が必要となっている。</p>

## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数（週、月）、実施体制（スタッフ、研修）、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携（協力）体制 等</p> <p>事業 膝腰健康体操教室            対象者 65歳以上の高齢者            事業内容 ・プールでの浮力を利用した膝腰に無理のかからない運動                      ・床でのストレッチ中心の運動            開始時期 平成12年4月            実施回数 プール教室 週2回                      床教室 健脚度測定時、老人クラブからの希望により            実施体制 みまき福祉会に委託し指導員を確保            他課との連携 社協、教育委員会事業のへ教室を積極的に組んでもらう</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>住民へのパンフレット送付            介護予防教室を周知するための教室無料開放            生きがいデイサービスでの体験教室の実施            温泉施設を利用したの床運動教室の開催            公民館高齢者学級での教室開催</p>

## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数)</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>事業名 12年度膝腰健康(転倒予防)教室 実施回数 239回 延参加者 2385人 事業費 316万円</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>事業参加による成果を健脚度という具体的な評価基準により判断できるため、じぎょうの必要性、有効性を住民に伝えやすい。</p> <p>温水プールがあり年間を通して教室が開催できるため、参加者が定着する。このことにより一層の教室の効果が見込める。</p> <p>個人の教室への参加にあたり、研究所スタッフの助言があるため、安心して運動できる。</p>



## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<p>始まって間もないため、健脚度測定の評価結果から教室への参加を勧めても、参加してくれる人が少ない。</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<p>根気よく勧誘のみ。自分の周りに参加者が多くなると、参加に対して抵抗がなくなってくると思われる。</p>

## 6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>( ● ) 行っている。→②へ</p> <p>(   ) 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>健脚度測定</p> <p>移動能力測定（10m全力歩行、最大一步幅、40cm踏台昇降）</p> <p>バランス測定（つぎ脚歩行）</p> <p>身体測定（BMI, 下肢長）</p> <p>日常生活（身体状況、運動習慣、転倒頻度）聞取</p> <p>実施時期      5月～7月</p> <p>評価者          研究所</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>教室への参加がそれほど積極的とは言えない現状では費用対効果は薄いといわざるを得ない。</p> <p>しかし、定着していく中で、国民健康保険・介護保険会計に好影響が出るものがほぼ確認できてきているため、長い目で見ると有効であると思われる。</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	